

企業活動 公正な取引に向けて

お取引先様を含めたバリューチェーン全体で、公正な取引の実現を目指しています。

●基本的な考え方

日本光電では、健全・公正な購買活動を行うとともに、お取引先様を含めたバリューチェーン全体での公正な取引の実現を目指しています。公正な取引の実現に向けて、社内教育の実施、お取引先様との関係強化などに取り組んでいます。

●調達方針・基準

日本光電の調達に関する姿勢を広く社内外に周知し、浸透させることを目的に、「日本光電調達方針」「日本光電CSR調達基準」を2013年に策定しました(2020年度から「日本光電サステナブル調達基準」に名称変更)。「日本光電調達方針」は、日本光電の調達に関する基本方針を示しています。また、「日本光電サステナブル調達基準」は、日本光電がお取引先様に期待するサステナビリティに関する遵守事項を示しています。詳細については、当社ウェブサイトをご覧ください。

 <https://www.nihonkohden.co.jp/information/supplier.html>

●「日本光電サステナブル調達基準」遵守に向けて

日本光電グループでは、従業員一人ひとりが健全かつ公正な取引に関する正しい理解と意識を持続けるため、全従業員に対して定期的なコンプライアンス教育を実施しています。特に、調達に関連する部門では、公正競争規約や下請法など、それぞれの機能に対応した諸法令などの研修を毎年実施しており、2019年度は56名が受講しました。

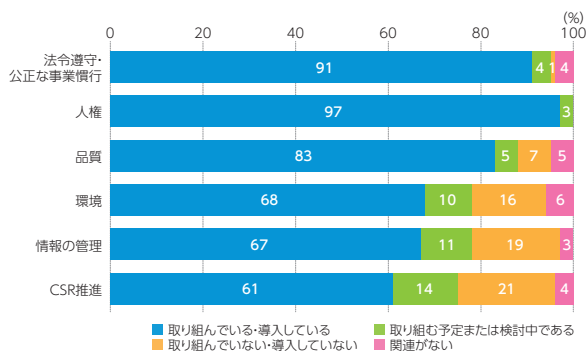
また、お取引先様とも相互にコミュニケーションを図りながら、「日本光電サステナブル調達基準」への理解と対応をお願いしています。環境や品質への取り組みについて自己評価をお願いするとともに、毎年実施している「CSRへの取り組みアンケート」に回答していただくことで、「日本光電サステナブル調達基準」に関する認識と遵守状況を確認しています。また、アンケートを通していただいたご意見は、調達部門へフィードバックし、公正で責任ある調達の実現に向けて活用しています。

◎「CSRへの取り組みアンケート(2019年度)」の結果

2019年度は、118社のお取引先様に依頼し、その全てのお取引先様にご協力をいただきました。調査は、6項目「法令遵守・公正な事業慣行」「人権」「品質」「環境」「情報の管理」「CSR推進」の20問で構成され、特に「CSR推進」では、経営

理念・企業の行動指針などの策定に関する質問に対して、90%以上のお取引先様から「策定している」あるいは「策定の予定がある・検討中である」とご回答いただきました。また、複数のお取引先様から、国連グローバル・コンパクトや国連世界食糧計画、様々な社会貢献・支援活動への参加報告をいただきました。今後もお取引先様と一体となり、サステナブル調達基準の相互認識を深め、公正な取引を実施していきます。

アンケート結果(2019年度)



●品質維持と向上への取り組み

お客様のご要望にお応えできるよう、調達する部品・材料の品質維持・向上に取り組んでいます。新規のお取引先様については、品質マネジメントシステムの適切な運用を確認するための監査にご協力をいただいています。既存のお取引先様については、定期的な運用調査や、納入部品の品質に応じた品質監査を行っています。納入部品の品質が最終製品の品質に大きな影響を与えることをお取引先様にもご理解いただき、さらなる品質向上に努めます。

●新型コロナウイルス感染症拡大に伴う、増産支援への御礼

世界的な新型コロナウイルスの感染拡大により人工呼吸器や生体情報モニタの需要が高まっていることから、富岡生産センタ(群馬県)および日本光電オレンジメッド(米国)において増産を進めています。多くのお取引先様から緊急注文・優先供給にご協力をいただいていますことを深く感謝申し上げます。

企業活動 日本光電の地域貢献

地域社会の一員として、文化や習慣を尊重した積極的な地域貢献を通じて、良き企業市民を目指しています。

●地域社会貢献

◎AEDを使用した迅速な救命活動により2名を救助

2019年5月と12月に、日本光電の社員2名が、それぞれ当社製のAEDを使用して人命救助を行い、消防署から感謝状を贈呈されました。

両名とも「自分がやらなければ、と自然に身体が動いた」「当社のオレンジ色のAEDが届いた時は安心した」「国内で唯一のAEDメーカーの社員である誇りと責任を改めて強く感じた」と話しています。

日本光電では、迅速な救命活動が行えるよう全社員が心肺蘇生とAEDの講習会を受講しています。今後も、命に関わる医療機器を扱うメーカーとして心肺蘇生とAEDの普及を推進し、救命率の向上を目指します。



東京消防庁消防総監からの表彰



船橋市中央消防署からの表彰

◎新入社員向け骨髄ドナー説明会を開催

日本光電では、2015年から骨髄ドナー休暇を導入し、骨髄バンク登録や骨髄および末梢血幹細胞移植に関する見識を深めるための説明会を継続して開催しており、2019年5月にも新入社員70名を対象に骨髄ドナー説明会を開催しました。

当日は、日本骨髄バンクの方にご講演いただき、参加した社員からは、「骨髄提供は痛いと思っていたがイメージが払拭された」「自分の行動で救われる命があり、会社もドナー活動を支援してくれることを知ったので前向きに検討したい」等の感想がありました。

この骨髄ドナー休暇が、「ドナー登録の啓発」「ドナー候補者への職場の理解」への支援につながればと考えています。日本光電では、企業市民としての責任を自覚し、企業・個人の立場両面から積極的に社会貢献に取り組めます。



新入社員へのご講演風景

Topics



寄贈時には感謝の言葉をいただきました

中国での新型コロナウイルス対策を支援

2020年3月に、中国における新型コロナウイルス対策を支援するため、武漢および上海の医療機関へ医療機器を寄贈しました。

(武漢) 中国初級衛生保健基金会	生体情報モニタ	30台、除細動器	20台
武漢市普仁医院	人工呼吸器	2台	
(上海) 上海市闵行区卫生健康委员会	生体情報モニタ	21台	
復旦大学附属華山医院	生体情報モニタ	12台	

※金額は合計で136百万円相当。

寄贈先の復旦大学附属華山医院からは、「新型コロナウイルス感染症指定病院として受診者数が急増する中、日本光電からモニタを寄贈していただいたお陰で、より多くの命を守ることができました。当院だけではなく、日本から中国各地にマスクや防護服などが寄贈されたことも知っています。日本に対して、心から感謝の意を表します」という声も届いています。

日本光電は、医療機器メーカーとして、今後も新型コロナウイルス対策に尽力されている医療従事者の支援に最善を尽くします。